

2012

2012

医学研究科
医学研究科



The Graduate Schools of Keio University



慶應義塾大学大学院 2012

〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

<http://www.keio.ac.jp/>

大学院案内ホームページ

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shingaku/booklet/>

慶應義塾大学大学院

The Graduate Schools of Keio University

医学研究科 | 案内

医

The Graduate School of Medicine

医

The Graduate School of Medicine

がんプロフェッショナル養成プラン



拠点リーダー
慶應義塾大学医学部教授
先端医科学研究所所長
河上 裕

“がんプロ”とは

厚生労働省科学研究費研究班推定によれば、2015年には日本人の2人に1人ががんで死亡することとなり、がんはかつての結核のように国民病となりつつあります。このような背景を基に平成18年にがん対策基本法が国会で成立し、その決定を受けて、将来のがん医療を担う医療人の養成推進を図ることを目的として「がんプロフェッショナル養成プラン」(通称“がんプロ”)が文部科学省より提案されました。慶應義塾大学は、北里大学、聖マリアンナ医科大学、東海大学、山梨大学、首都大学東京、聖路加看護大学との共同申請により、平成19年度がんプロフェッショナル養成プランに採択され(信州大学、東京歯科大学ものちに参加)、平成20年度より大学院医学研究科にがん治療専門医療人養成の

ための枠を特別に設置いたしました。更に、私達は独自のアイデアとして、がん医療に限定せず、臨床分野における質の高い医療の提供と疾患の根治を目指した本格的な臨床試験を計画・実施できる人材の育成、更には医師以外の医療関連人材の育成をこの大学院のコースに組み込み(臨床研究プロ育成プログラム)、平成21年度より正式に「医療科学系」(定員8名)として新たに立ち上げることに致しました。本専攻の卒業生が、将来国内外においてがんをはじめとする各種疾患の最先端治療を担うリーダーになることを確信しています。

がんプロ大学院教育課程の概要

本プログラムを選択した大学院生は、初年度にがん医療の基盤的知識及び幅広いがん治療に関する講義を受講するとともに、2~3年次には複数の診療科やがんプロ連携施設をローテートし、多様な がんに対する化学療法、分子標的療法、放射線療法、低侵襲外科、緩和医療・リハビリなどを実地で経験することになります。4年次にはがん患者の治療計画をリーダーとして立案遂行する訓練を受け、専門的知識と技術を磨くとともに種々学会等の癌治療関連の専門医の受験資格を得ることを目標とします。またこの間、米国MDアンダーソンがんセンター医療エキスパート育成コース、がん薬物療法updateをはじめとする多くの短期インテンスコース(慶應義塾大学がんプロは、大学院での人材育成のみならず、既にがん医療の最前線で仕事をしておられる医療人の皆さんを対象に各種の短期インテンスコースを開講しています)にも積極的に参加し、がん診療のトランスレーショナル研究に関して常に最新の情報を取得するとともに、チーム医療についての実践的能力を身につける事を目指します。さらに、一年次から複数教官の指導のもとで臨床研究のテーマを選び実施し、英文論文を作成することにより学位取得を目指します。

がんプロ大学院を修了した者は、将来我が国の様々な施設でがん医療のリーダーとして活躍することになり、彼らの活躍によって、がん対策基本法の目指す「がん治療の均てん化」つまり日本中どこでも、いつでも均質ながん治療を受けることが可能となります。

慶應がんプロの各種コース

慶應義塾大学院医学研究科医療科学系がんプロフェッショナル養成プログラムには、入学者の背景の違いに対応して各種コースが設定されています。

- 内科系臨床腫瘍医養成コース
- 外科系臨床腫瘍医養成コース
- 放射線治療専門医養成コース
- 緩和医療専門医養成コース
- リハビリ専門医養成コース
- 臨床医学物理研修研究コース

今後、がん医療に必要な職種の変化に柔軟に対応し、コースの追加や変更を行っていきたく考えています。

科学技術振興調整費イノベーション創出若手研究人材養成事業

PhD躍動メディカルサイエンス人材養成 - MEBIOSプログラム -



MEBIOS 慶應義塾大学が創る“もう1つの出口”

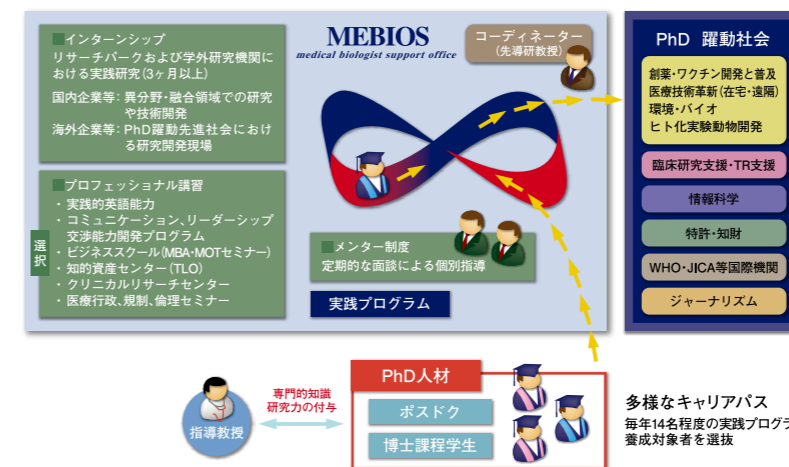
本学のメディカルサイエンス分野の研究を牽引する医学研究科では、1994(平成6年)に修士課程が開設されたこともあり、医学部以外での教育的背景をもつ多くの若手研究人材が医学博士号(PhD相当)の取得をめざすようになりました。大学や研究機関などのアカデミアにおいてPhD取得者の活躍の場が広がる一方で、アカデミア以外のキャリアを志す人材を滑らかに実社会へと送り出すシステム ~もう1つの出口~ を創造する必要性が高まりました。顕著な専門的能力のあるPhD人材に企業等実社会との接触の機会を与え、その多様な資質を社会に還元することは大学の使命です。

MEBIOS(Medical Biologist Support)は、メディカルサイエンスを中心とした分野において、高度の専門性と社会力(Social Mind)とを兼ね備えた若手PhD人材(博士課程学生および学位取得後5年程度までのポストドク)の養成を目的としています。コーディネーター、メンターが養成対象者の個性とキャリア・プランに応じた柔軟かつきめ細やかな養成プログラムを設計し、さらに企業などの「専門性のマッチング」を図ることにより、あたかもMöbius(メビウス)の輪の表裏がつながるように、アカデミアと実社会とを滑らかにつなぐことを目指しています。

MEBIOS実践プログラム

公募または指導教員の推薦による応募者の中から選抜する毎年14名程度のPhD人材を対象とし、大学の雇用のもと3ヶ月~1年間(最長)の「実践プログラム」に参加いただけます。なお、博士課程在学中に応募資格を有するのは、原則として博士学位取得見込みの方(実践プログラムへの参加に支障がないこと)です。留学生も応募可能です。

実践プログラムは、専門応用能力開発のための「インターンシップ」と研究周辺能力開発のための「プロフェッショナル講習」で構成され、さらに養成対象者を個別指導するための「メンター制度」を導入しています。



● インターンシップ

国内外の連携企業等において、また医学部リサーチパークにおける企業との共同研究の場を活用して、通算3ヶ月以上、研究開発その他の業務の実地研修に従事します(必須)。インターンシップ実施機関は養成対象者の専門性とキャリア・プランに応じて決定され、当該機関と大学の協働のもと研修プログラムを策定します。異分野領域への挑戦意欲も積極的にサポートします。

連携機関は、製薬・創薬、精密・医療機器、食品メーカーのほか、電気機器・情報通信系、学術誌出版・教育系、特許事務所など幅広い分野にわたっています。

● プロフェッショナル講習

深い専門性を探求し研究に専念してきたPhD人材が企業等の産業界に進路を求めるときに必要な様々な知識・スキルを習得します。

養成対象者のレベルに応じカスタマイズされた実践的英語能力獲得プログラムをはじめ、創業、臨床研究、知的財産・研究成果実用化、MOT、医療行政・規制・倫理、医療ジャーナリズムなど、多彩で専門化した社会常識を習得するためのセミナーに参加します。

● メンター制度

産業界に精通した企業役員経験者をメンターに迎え、PhD人材の相談役として、定期的な面談等を通じた個別指導を行います。

MEBIOSは、グローバルCOEプログラムやがんプロフェッショナル養成プランなどの若手研究者育成プログラムと相互に補完し合いながら、医学研究科生の多様なキャリア形成をサポートします。

医学部・医学研究科

		論文審査資格		所 属	専門領域	研究内容等
		修士	博士			
工藤 純 Jun Kudoh	教授	●	●	共同利用研究室 (遺伝子医学)	遺伝子医学	様々な単一遺伝子疾患の原因遺伝子やアトピー性皮膚炎等多因子疾患の遺伝的要因と発症機序の解明を目指している。
松尾 光一 Koichi Matsuo	教授	●	●	共同利用研究室 (細胞組織学)	細胞組織学、 骨形態学、 骨代謝学、 骨免疫学	骨組織の発生・恒常性維持・修復における形態形成機構とその破綻の本質を解明する。分子・細胞・マクロの骨形態を結びつけ、骨・軟骨を根源から理解する。
須田 年生 Toshio Suda	教授	●	●	発生・ 分化生物学教室	造血幹細胞の 未分化性維持機構	幹細胞は、高い増殖能を有しながら分裂能を停止している細胞である。造血幹細胞は、周辺にあるニッチ細胞(骨芽細胞・血管細胞など)によって、未分化性を維持している。この分子機構を解析して、幹細胞の本体に迫る。
平形 道人 Michito Hirakata	准教授			医学教育統轄 センター	リウマチ学・臨床 免疫学：「自己抗体 の臨床免疫学的意義 に関する研究」	リウマチ性疾患・膠原病などの自己免疫疾患の主徴である「自己抗体」の産生機序、臨床的意義、病態形成機序を追究している。また、自己免疫疾患の臨床特徴、病態解析に関する臨床研究も行っている。
相磯 貞和 Sadakazu Aiso	教授	●	●	解剖学教室	組織、細胞の形態 形成機構	組織、細胞の形態が細胞の分化によって形成される過程について、形態学的に追究するとともに、細胞膜から核に至る情報伝達あるいは転写調節の機構を分子、遺伝子レベルで解析している。
仲嶋 一範 Kazunori Nakajima	教授	●	●	解剖学教室	中枢神経系の形作り のメカニズム	中枢神経系の神経細胞が、いかにして誕生し、その後どのような制御を受けてあるべき場所へと移動して、最終的に整然とした機能的細胞社会を形成していくのかを、分子・細胞レベルで明らかにすることを目指している。
今西 宣晶 Nobuaki Imanishi	准教授			解剖学教室	X線学的手法による 人体の3次元血管 解剖の解明	全身動脈あるいは静脈造影を施した標本を用い、身体各器官の細動脈、小動脈レベルでの3次元血管解剖の解明をX線学的に行っている。この血管解剖の解明により外科的手技への臨床応用を目指している。
岡野 栄之 Hideyuki Okano	教授	●	●	生理学教室	中枢神経系の発生と 再生	発生過程及び成体の中枢神経系における神経幹細胞の自己複製とニューロンおよびグリアへの分化の制御の分子機構を解明するとともに、この知見を踏まえ、これまで不可能とされた哺乳類中枢神経系の再生戦略を開発する。
柚崎 通介 Michisuke Yuzaki	教授	●	●	生理学教室	シナプス形成・ 可塑性とグルタミン 酸シグナリング	発達段階のみならず、成熟脳においても、シナプスの形成と機能的なシナプス可塑性を制御している分子として、特にグルタミン酸受容体とその関連因子に焦点を当てて、小脳を主にモデルとして研究している。
金田 誠 Makoto Kaneda	准教授			生理学教室	視覚生理学	網膜内網状層コリン作動性アマクリン細胞に存在するP2X2型プリン受容体のアセチルコリン放出制御機構について、免疫組織化学的手法、ならびにパッチクランプ法を用いて解析している。
岡野 ジェイムス 洋尚 Hirotaka James Okano	准教授			生理学教室	神経分化の分子機構	神経幹細胞が細胞分裂を停止して神経細胞へ分化する過程において、多くの遺伝子の発現タイミングを統合的に調節している制御メカニズムを研究している。神経分化の分子機構を解明し、再生医療に利用することを目指している。
安井 正人 Masato Yasui	教授	●	●	薬理学教室	水分子の生物学 (Water Biology)： 水分子ナノ動態と生 体膜のダイナミズム	水チャンネル、アクアポリンの構造・機能相関を生化学的アプローチと分子動力学シミュレーションの両面から解析する。さらに、アクアポリンの制御機構、高次機能を研究し、創薬の基盤を築く。
相馬 義郎 Yoshirou Sohma	准教授			薬理学教室	チャンネル・トランス ポータの分子薬理学	生理的に重要な働きをしているABCトランスポーター・スーパーファミリーに共通したATP依存性駆動エンジンの動作機構を解明することを通じて、ABCトランスポータの系統的な活性制御技術の開発を目指している。
末松 誠 Makoto Suematsu	教授	●	●	医化学教室	病態生化学 (Gas Biology)：ガスによる 生体制御の生物学、 微小循環学、代謝 システム生物学	ガス分子による新しい代謝制御の分子機構を追究する一方、メタボロームや質量顕微鏡を活用した代謝システム生物学を推進している。
塩見 春彦 Haruhiko Siomi	教授	●	●	分子生物学教室	RNA 生物学	RNAi関連分子経路の解析を通して、これら分子経路によるゲノムの品質管理機構と幹細胞形成・維持機構への関与を理解する。また、その異常による疾患発症機構の理解とその治療戦略への応用を目指している。

		論文審査資格		所 属	専門領域	研究内容等
		修士	博士			
塩見美喜子 Mikiko Siomi	准教授			分子生物学教室	RNAサイレンシング、 RNA生物学	RNAサイレンシングの分子機構に関わる因子の同定およびその分子機能、生合成機構を理解する。RNAサイレンシングとその他の細胞内分子経路との関連を明らかにする事によって生命の分子設計図の理解を深める。
大前 和幸 Kazuyuki Omae	教授	●	●	衛生学 公衆衛生学教室	有害化学物質の健康 影響に関する疫学・ 中毒学	有害化学物質による健康影響を、最適な研究手法(疫学研究、齧歯類・小型魚類を用いた動物実験等)を駆使して明らかにし(リスクアセスメント)、得られた結果を社会に適用すること(リスクマネジメント)。
武林 亨 Toru Takebayashi	教授	●	●	衛生学 公衆衛生学教室	疫学、 ポピュレーション・ ヘルス	Common diseaseの一次予防、QOL向上を目標に、地域コホート等の幅広いポピュレーションで観察疫学・介入疫学研究を実施している。また、質の高い臨床研究、EBM実施を目指した臨床疫学研究を行っている。
岡村 智教 Tomonori Okamura	教授			衛生学 公衆衛生学教室	循環器疾患の疫学 研究	脳血管障害や冠動脈性心疾患の発症要因をコホート研究などの疫学手法で解明する。脂質異常症など古典的な危険因子に加えて新しいバイオマーカーの意義も検証し、将来の予防施策につながる研究を目指している。
岡田 保典 Yasunori Okada	教授	●	●	病理学教室	細胞外マトリックス 分解酵素による組織 破壊機構	細胞外マトリックス分解酵素(MMPとADAM)に関して、その機能解析とともに癌細胞浸潤・転移、関節疾患での関節軟骨・骨破壊、血管新生、組織破壊モデル(肺気腫、心筋梗塞など)での役割を解析している。
坂元 亨宇 Michie Sakamoto	教授	●	●	病理学教室	がんの多段階発がん 過程と浸潤・転移の 分子機構ならびに分子 診断	がんの初期像、多彩な組織型、浸潤転移様式などの分子的背景を、組織を用いたゲノミクス・プロテオミクス研究と、ヒトがんモデル・細胞系での研究を統合して解析し、分子診断・分子標的治療への応用を目指している。
山田 健人 Taketo Yamada	准教授			病理学教室	疾患モデルの確立 および分子標的療 法の開発研究	免疫不全マウスを用いて、がん・免疫疾患を生体内で再現するモデルを確立し、その病態病理を解析する。また、がん・免疫疾患の分子標的療法の標的分子を探索し、その機能解析、抗体開発から臨床病理学的研究を行う。
小安 重夫 Shigeo Koyasu	教授	●	●	微生物学・ 免疫学教室	免疫学、 細胞生物学	分子細胞生物学的手法とマウスモデルを駆使し、自然免疫系と獲得免疫系の制御機構の解明を目指している。感染症や自己免疫疾患などの免疫関連疾患の克服につながる基礎研究を進展させることが目標である。
吉村 昭彦 Akihiko Yoshimura	教授	●	●	微生物学・ 免疫学教室	分子免疫学 サイトカインと炎症 を中心とした疾患 の病態解明	1. CIS/SOCSファミリーとサイトカインによる免疫調節機構の解明 2. 炎症を中心に各種疾患におけるサイトカインとそのシグナルの意義の解明 3.Spred/Sproutyファミリーの機能解析 4.T細胞リプログラミング。
藤田 眞幸 Masaki Fujita	教授	●	●	法医学教室	突然死の研究、 法医学的客観的診 断基準の確立	ポックリ病を代表とする若年者の突然死につき、遺伝子解析や日米での疫学的比較研究を行い、その原因、素因を究明することを目指している。また、多くの鑑定業務を通して、客観的な診断基準の確立を進めている。
池上 直己 Naoki Ikegami	教授	●	●	医療政策・ 管理学教室	医療政策 医療管理学 介護の包括的範囲	医療制度、特に診療報酬のあり方、介護保険との関係、介護の質の評価指標の開発と検証、効率性を把握するための費用の把握方法等に関する研究に従事している。
下田 耕治 Koji Shimoda	准教授			動物実験 センター	実験動物学、 実験動物の福祉、 マウスの発生工学	動物利用のひとつの形態である実験に利用される動物の福祉について考察し、適正な動物実験の実施を点検・評価、検証する。トランスジェニック技術を用いて各種モデルマウスを作製し、ヒト疾患を含む生物医学的現象を研究する。
河上 裕 Yutaka Kawakami	教授	●	●	先端医学研究所 細胞情報研究部門	免疫疾患(癌・自己 免疫疾患など)の病 態解明と制御法開発	癌・自己免疫疾患・移植・感染症などの免疫関連疾患の免疫病態の細胞・分子レベルでの解明(抗原同定とT細胞応答解析)と、免疫制御のための免疫療法・遺伝子治療の開発、癌形成(癌幹細胞・上皮間葉転換・癌間質等)の分子機構解明と分子標的治療の開発。
佐谷 秀行 Hideyuki Saya	教授	●	●	先端医学研究所 遺伝子制御研究部門	悪性腫瘍形成の 分子機構	1)細胞周期制御分子の機能解析とその破綻がもたらす形質変化。 2)癌細胞浸潤・転移の分子機構解析。 3)抗癌剤作用の分子機構解析と新規抗癌剤の開発。 4)発癌モデルを用いた癌幹細胞の性状解析。

		論文審査資格		所 属	専門領域	研究内容等
		修士	博士			
佐藤 裕史 Yuji Sato	教授	●		クリニカルリサーチセンター	臨床研究方法論、製薬医学、臨床薬物動態学、精神医学	臨床研究の指導・援助を行い、治験の活性化・国際化、医薬品・医療機器開発におけるregulatory scienceにも係って産官学の連携を推進している。精神医学では思春期精神医学、精神病理学、精神療法、薬物動態学が関心分野である。
矢作 直久 Naohisa Yahagi	教授	●	●	腫瘍センター	消化管腫瘍の低侵襲治療	低侵襲治療の代表的なものである内視鏡治療および腹腔鏡治療に関する新たな手技の開発、治療機器の開発を行っている。さらに内視鏡および腹腔鏡の融合した新たな治療手技や、NOTESに関する機器開発を行っている。
岩田 敏 Satoshi Iwata	教授	●	●	感染制御センター	細菌感染症、小児感染症、抗菌薬、病院感染対策、予防接種、腸内細菌叢	呼吸器感染症、尿路感染症、中枢神経系感染症、菌血症、医療器具関連感染症、耐性菌感染症等の各種感染症の疫学的解析及び抗感染症薬の臨床薬理学的解析を通じて、感染症の診断・治療・予防の適正化を目指している。
長谷川直樹 Naoki Hasegawa	准教授			感染制御センター	臨床感染症学、呼吸器内科(感染症)、感染制御学	●気管支鏡下で気道被覆液を局所から採取しその抗菌薬の濃度を測定することにより抗菌薬の肺への移行性を評価する。●非結核性抗酸菌症の疾患活動性を評価する血清バイオマーカーを探索する。
日比 紀文 Toshifumi Hibi	教授	●	●	内科学教室 消化器内科	消化管免疫(Mucosal Immunology)、炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病) 胃癌・大腸癌	炎症性腸疾患におけるT/B細胞・マクロファージ・樹状細胞等の免疫担当細胞の機能異常と腸内細菌叢の関与、慢性炎症からの消化器癌の発症機構や、幹細胞による粘膜再生治療の可能性に関する解析。
鈴木 則宏 Noriyuki Suzuki	教授	●	●	内科学教室 神経内科	脳血管障害・認知症・神経変性疾患・頭痛の病態解明と治療の開発	1)急性期脳血管障害および片頭痛の病態生理の解明と新たな治療法の開発、2)脳血管の神経支配に関する基礎的研究、3)血管性頭痛・認知症・神経変性疾患への神経伝達物質・受容体からのアプローチによる研究を行っている。
伊藤 裕 Hiroshi Ito	教授	●	●	内科学教室 腎臓内分泌代謝内科	生活習慣病、メタボリックシンドロームとその腎血管合併症に関するトランスレーショナルリサーチ	高血圧症、糖尿病、肥満など生活習慣病とその重積であるメタボリックシンドロームおよび腎血管合併症の分子機構を内分泌代謝学的に明らかにし、未病医学、抗加齢医学、再生医学の観点より新規医療法開発に応用するトランスレーショナルリサーチを推進している。
岡本真一郎 Shinichiro Okamoto	教授	●	●	内科学教室 血液内科	造血幹細胞移植および分子標的療法を応用した造血器悪性腫瘍の新規治療の開発	分子標的療法を用いた前処置の抗腫瘍効果の選択的増強、同種移植後の免疫反応の選択的制御、臍帯血移植後の同種免疫反応に付随する抗腫瘍効果の機序、移植後のQOL、骨髄腫、MDSに対する新規分子標的療法についての臨床研究に取り組んでいる。
竹内 勤 Tutomu Takeuchi	教授	●	●	内科学教室 リウマチ内科	自己免疫病の分子機序の解析とその制御、それを標的とする治療法の開発	自己免疫疾患(関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、など)の病態形成に関わる分子異常を解析し、その異常分子標的に対する制御法の開発とそれを臨床応用するためのトランスレーショナル研究の展開。最新の分子標的治療薬によるテーラーメイド治療法の構築。
福田 恵一 Keiichi Fukuda	教授	●	●	内科学教室 循環器内科	心筋細胞の再生による難治性心不全の治療法開発	iPS細胞等を用いた心筋細胞再生と、これもちいた種々の心疾患の病態解明、治療法の開発、再生医療の研究を進めている。心不全と交感神経機能の相関関係、心臓弁膜症の発症機転、肺高血圧症の治療法開発等の多方面の研究を展開している。
別役 智子 Tomoko Betsuyaku	教授	●	●	内科学教室 呼吸器内科	呼吸器疾患の病態解明と新規治療に関する基礎・臨床研究	慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺炎、気管支喘息などの炎症性肺疾患や肺癌の病態解明および発症機序に関する分子生物学的研究と、病勢を反映するマーカー探索、新規の診断法・治療法の確立をめざす臨床研究を行う。
桑名 正隆 Masataka Kuwana	准教授			内科学教室 リウマチ内科	関節リウマチ・膠原病の病態解明と新規治療法の開発	関節リウマチおよび全身性エリテマトーデス、強皮症などの膠原病の病態を自己免疫、血管新生、線維化機序に着目して解析し、その成果に基づいた新しい治療法の臨床応用を目指している。
高橋 慎一 Shinichi Takahashi	准教授			内科学教室 神経内科	脳のエネルギー代謝、循環調節の基礎研究と神経疾患への応用	脳を構成する細胞集団のうち特にアストログリアに注目し、その機能解析を行っている。この機能異常に起因する疾患(astroglipathy)の病態解明と再生医療への応用を目指す。
金井 隆典 Takanori Kanai	准教授			内科学教室 消化器内科	消化器病学 粘膜免疫学	腸管免疫難病の病態解明と治療法の開発と次世代内視鏡開発に取り組んでいる。

		論文審査資格		所 属	専門領域	研究内容等
		修士	博士			
林 晃一 Koichi Hayashi	准教授			内科学教室 腎臓内分泌代謝内科	慢性腎臓病の進展機構の分子生物学的検討	慢性腎臓病の進展過程におけるRhoを含むG蛋白ならびに低電位誘発性Caチャネルの役割を評価し、新たな治療戦略を探索している。さらに腎障害・腎エイジングにおける長寿遺伝子(Sirt)と細胞代謝との関連を検討している。
浅野浩一郎 Koichiro Asano	准教授			内科学教室 呼吸器内科	炎症性呼吸器疾患(喘息、COPD、肺線維症)と免疫	炎症性呼吸器疾患(喘息、COPD、肺線維症)における自然炎症と病原体(真菌、ウイルス)感染による修飾、気道炎症の終熄過程に関わる分子、特に脂質メディエーターに関する研究を行っています。
中島 秀明 Hideaki Nakajima	准教授			内科学教室 血液内科	造血システムと白血病発症の分子制御機構	造血幹細胞の未分化性維持機構から血球分化の分子メカニズムを統合的に明らかにし、その異常である白血病などの造血器腫瘍の発症機構に迫る。さらにこれを元にした新たな分子標的治療薬の開発を目指している。
鈴木 秀和 Hidekazu Suzuki	准教授			内科学教室 消化器内科	消化器内科学、上部消化管学、分子腫瘍学	上部消化管の良悪性疾患及び機能性消化管障害の病態機序の解明と新規診断・治療法の開発、 <i>Helicobacter pylori</i> による病態形成(分化・再生異常、癌化)と薬剤耐性獲得の分子生物学的研究・臨床研究。
四津 良平 Ryohei Yozu	教授	●	●	外科学教室 心臓血管外科	心臓血管外科学、体外循環、人工臓器、臓器移植、低侵襲心臓手術	低侵襲心臓手術を進化させたPort-Access手術に取り組み、術式と体外循環法を工夫すると共に、独自の手術器械を開発することで、より安全で低侵襲な手術手技の確立と手術適応の拡大を目指している。
北川 雄光 Yukou Kitagawa	教授	●	●	外科学教室 一般・消化器外科	消化器外科学、外科腫瘍学、内視鏡外科、固形癌集学的治療、外科感染症、外科侵襲と生体反応、Sentinel node navigation surgery	癌リンパ節転移機構の解明とその制御をSentinel node理論に立脚したアプローチで研究。癌微小転移や末梢血中癌細胞の検出法を応用した、消化器癌集学的治療の個別化の実現。高度外科侵襲や外科系感染症に伴う生体反応に関する研究。
黒田 達夫 Tatsuo Kuroda	教授	●	●	外科学教室 小児外科	小児がんの細胞動態、胎児外科	小児がんの分子生物学的手法による微小転移検索ならびに細胞動態解析を臨床研究とあわせて総合的に分析している。胎児呼吸器疾患の病理学的検討から胎児外科症例の適応を分析している。
野守 裕明 Hiroaki Nomori	教授	●	●	外科学教室 呼吸器外科	呼吸器外科	(1)肺癌のPET、MRI、CTの画像診断、(2)肺癌のセンチネルリンパ節、(3)肺癌に対する区域切除術における肺機能温存に関する研究を推進している。
吉田 一成 Kazunari Yoshida	教授	●	●	外科学教室 脳神経外科	脳腫瘍外科的治療、悪性脳腫瘍の集学的治療、頭蓋底外科、脳腫瘍の組織学的生物学的解析	脳腫瘍、頭蓋底疾患の臨床像の解析と外科解剖に基づいた手術法の開発。悪性脳腫瘍(特に胚細胞性腫瘍)の完治を目指した診断学、集学的治療の開発。組織化学的、生物学的手法による脳腫瘍の悪性度の解析。
大平 貴之 Takayuki Ohira	准教授			外科学教室 脳神経外科	脳腫瘍外科、機能的脳神経外科、低侵襲的治療法、神経生理学	聴神経腫瘍などの脳腫瘍への低侵襲的治療法の開発(神経内視鏡手術、コンピュータ誘導ナビゲーション手術、定位的放射線手術)。パーキンソン病などの不随意運動や頑通への脳深部刺激療法の開発。f-MRI、MEG、NIRS、磁気刺激を用いた高次神経機能診断法の開発。
堀之内宏久 Hirohisa Horinouchi	准教授			外科学教室 呼吸器外科	肺癌の外科治療、縦隔腫瘍の集学的治療、人工酸素運搬体の開発、肺循環の病態生理、腫瘍循環の成立機序の解明	肺癌、縦隔腫瘍の治療成績向上のための臨床研究。臨床応用可能な人工酸素運搬体の開発研究。急性肺障害を中心とした急性病態における肺循環の変化に関する研究、腫瘍循環の成立にかかわる分子生物学的検討。
饗庭 了 Ryo Aeba	准教授			外科学教室 心臓血管外科	小児・先天性心疾患の外科治療	自己組織や再生医療を利用した先天性心疾患の外科治療法を開発している。
田邊 稔 Minoru Tanabe	准教授			外科学教室 一般・消化器外科	肝・胆道・膵臓外科、臓器移植外科、移植免疫学	肝癌に対する低侵襲治療の開発(凍結治療や腹腔鏡下手術など)。臓器移植分野では、ABO血液型不適合肝移植における抗体関連拒絶反応の制御法の開発や、虚血再灌流障害におけるサイトカイン・HMGB-1などの意義について基礎・臨床研究を行っている。
武田 純三 Junzou Takeda	教授	●	●	麻酔学教室	呼吸障害の発生機序の解明と予防・治療	筋弛緩薬の呼吸中枢抑制と防止、誤嚥性肺炎と口腔・鼻腔内ケアの関連、人工呼吸器関連肺炎の機序の解明。

	論文審査資格 修士 博士	所 属	専門領域	研究内容等
津崎 晃一 Koichi Tsuzaki	准教授		麻酔学教室	生体信号の時系列解析、システムダイナミックスと最適制御(薬物投与)
森崎 浩 Hiroshi Morisaki	准教授		麻酔学教室	敗血症心機能・腸管壁防御機構と保護手段・揮発性麻酔薬と微小循環障害
戸山 芳昭 Yoshiaki Toyama	教授	● ●	整形外科教室	1)神経幹細胞移植による損傷脊髄再生の研究、同時に神経栄養因子や軸索進展阻害因子の役割などについて豊長類を用い検討中。2)脊椎および関節の動態・不安定性に関する生体力学的研究と各運動器疾患の歩行解析。3)骨粗鬆症や関節軟骨変性等に関する病態説明(骨・軟骨代謝)
千葉 一裕 Kazuhiro Chiba	准教授		整形外科教室	椎間板・軟骨の生化学・分子生物学・分子遺伝学
松本 守雄 Morio Matsumoto	准教授		整形外科教室	脊椎外科、低侵襲脊椎手術、側弯症
貴志 和生 Kazu Kishi	教授	● ●	形成外科学教室	皮膚付属器を含めた皮膚の再生
緒方 寿夫 Hisao Ogata	准教授		形成外科学教室	1) 顎顔面外科、2) 頭頸部再建外科、3) 整容外科
高橋 孝雄 Takao Takahashi	教授	● ●	小児科学教室	発達神経生物学、細胞周期、神経幹細胞、大脳皮質発生
長谷川奉延 Tomonobu Hasegawa	准教授		小児科学教室	成長および性分化の分子遺伝学的機序
小崎健次郎 Kenjiro Kosaki	准教授		小児科学教室	ゲノム科学の進歩を小児科臨床に応用している(先天異常・薬理遺伝学)
吉村 泰典 Yasunori Yoshimura	教授	● ●	産婦人科学教室	生殖生理学、不妊症学、臨床内分泌学
青木 大輔 Daisuke Aoki	教授	● ●	産婦人科学教室	婦人科腫瘍学、婦人科病理学、癌関連糖鎖抗原に関わる糖鎖生物学
末岡 浩 Ko Sueoka	准教授		産婦人科学教室	生殖医学、配偶子・初期胚形成の分子生物学、着床前遺伝子診断
塚崎 克己 Katsumi Tukazaki	准教授		産婦人科学教室	細胞の癌化に伴う細胞膜複合糖質の発現異常の解析とその臨床応用
坪田 一男 Kazu Tsubota	教授	● ●	眼科学教室	再生医学、角膜移植、ドライアイ、屈折矯正手術、抗加齢医学

	論文審査資格 修士 博士	所 属	専門領域	研究内容等
根岸 一乃 Kazuno Negishi	准教授		眼科学教室	眼球光学系の病態説明・視機能解析
榛村 重人 Shigeto Shinmura	准教授		眼科学教室	角膜移植、角膜再生医療
天谷 雅行 Masayuki Amagai	教授	● ●	皮膚科学教室	自己免疫、皮膚バリア、皮膚免疫、アトピー性疾患、毛再生
海老原 全 Tamotsu Ebihara	准教授		皮膚科学教室	アトピー性皮膚炎の病態説明と治療法の確立、接触皮膚炎に関する臨床的研究
大家 基嗣 Mototsugu Oya	教授	● ●	泌尿器科学教室	泌尿器がんの発生・進展のメカニズムの解明と新規治療法の開発
中川 健 Ken Nakagawa	准教授		泌尿器科学教室	泌尿器科低侵襲手術、腎移植、副腎腫瘍
小川 郁 Kaoru Ogawa	教授	● ●	耳鼻咽喉科学教室	内耳感覚細胞の保護および再生機構、耳鳴の中樞抑制機構の解明
國弘 幸伸 Takanobu Kunihiro	准教授		耳鼻咽喉科学教室	めまい平衡、顔面神経麻痺、鼻副鼻腔疾患
井上 泰宏 Yasuhiro Inoue	准教授		耳鼻咽喉科学教室	神経耳科学、聴覚医学、側頭骨外科
三村 將 Masaru Mimura	教授	● ●	精神・神経科学教室	神経心理学および老年精神医学
加藤元一郎 Motoichiro Kato	准教授		精神・神経科学教室	脳損傷例および精神障害例の神経心理学的・神経画像学的研究
村松 太郎 Taro Muramatsu	准教授		精神・神経科学教室	神経心理学、司法精神医学
栗林 幸夫 Sachio Kuribayashi	教授	● ●	放射線科学教室	放射線診断科
茂松 直之 Naoyuki Shigematsu	教授	● ●	放射線科学教室	放射線治療科
村上 康二 Koji Murakami	准教授		放射線科学教室	ポジトロンCT (PET) による機能イメージングの研究

	論文審査資格 修士 博士	所 属	専門領域	研究内容等	
谷本 伸弘 Akihiro Tanimoto	准教授		放射線科学教室	放射線診断科	MRIを用いた腹部・泌尿器画像診断、組織特異性造影剤の研究開発 MRIを用いた悪性腫瘍の早期診断、とくに肝、膵、前立腺のミリ単位の微小癌を体外から無侵襲に診断する体系の確立をめざしている。また種々の組織特異性造影剤を用いたin vivo組織診断技術を研究している。
陣崎 雅弘 Masahiro Jinzaki	准教授		放射線科学教室	放射線診断科	循環器、腹部領域の画像診断アルゴリズムの確立と予後予測 様々な画像診断の位置づけを明確にし、疾患の画像診断アルゴリズムを確立していくこと。また、画像診断による質的診断を向上させることと、予後予測診断の可能性を追求している。
中川 種昭 Taneaki Nakagawa	教授	● ●	歯科・ 口腔外科学教室	1) 歯周病原性細菌に関する研究 2) 歯周組織を含む口腔組織再生に関する研究	1)歯周病原性細菌に対する免疫応答の解析、歯周病原性菌に対する抗菌剤の感受性と臨床的有効性の解析。2)歯周組織、とくにセメント質、歯槽骨、歯根膜の再生に関する研究、インプラント周囲の骨再生に関する研究。
里宇 明元 Meigen Riu	教授	● ●	リハビリテーション 医学教室	リハビリテーション医学、 神経科学、 運動生理学	1)中枢神経可塑性誘導のためのリハビリテーション手技の開発、2) brain machine interfaceの開発と臨床応用、3)障害の評価と予後予測、4)障害者の運動負荷に関する研究を推進している。
長谷 公隆 Kimitaka Hase	准教授		リハビリテーション 医学教室	障害医学、運動学、 電気診断学、 運動学習	運動麻痺をはじめとする障害の機能的回復を促進するための医療技術を、運動学、電気診断学、運動学習理論に基づいて研究・開発し、それらの臨床応用を目指している。
林 松彦 Matsuhiko Hayashi	教授		血液浄化・ 透析センター	水・電解質代謝、 腎臓の分化と再生	腎臓での酸・塩基平衡、慢性腎臓病のCa・P代謝の分子レベルでの病態生理的調節機構を解析している。また、進行性腎臓病の根本的治療法開発を目標として、腎臓の分化・再生機構の解明を行っている。
菅野 義彦 Yoshihiko Kanno	准教授		血液浄化・ 透析センター	腎臓病領域における 食事療法 超小型透析装置を用いた人工腎臓の開発	生活習慣病治療の基本である食事療法を科学的に再検証する。ナノテクノロジーによって作成した超小型透析装置を用いて、新たな人工透析システムを開発する(理工学部との共同研究)。
谷川原祐介 Yusuke Tanigawara	教授	● ●	臨床薬剤学教室	薬物動態学、 臨床薬理学	ヒトにおける薬効発現の個体差要因の解明と、個別化医療(オーダーメイド医療)をめざす至適投与の方法論に関する臨床薬理学研究を中心に、薬物体内動態、薬力学、ゲノム薬理学、新薬の臨床試験等を研究する。
村田 満 Mitsuru Murata	教授	● ●	臨床検査医学教室	遺伝子診断、 血液検査、 血栓性疾患の病態 解明と予防	ゲノム情報や遺伝子解析技術を駆使した新しい遺伝子診断法を診療の場に生かす為の研究を行っている。血栓形成の機序を分子学的見地から解明し、先天的、後天的危険因子を同定することにより有効な予防と治療を確立する。
堀 進悟 Hori Shingo	教授	● ●	救急医学教室	①救急医学モデル ②心血管蘇生 ③入浴中急死 ④CPR in Schools	①ER型救急医療の普及啓蒙活動、②心血管蘇生のシステム、EBM,および実験モデルによる病態研究(低体温、酸素ラジカル等)、③本邦特有の急死に関わる原因、病態、予防の臨床および実験研究、④学校内における蘇生教育の普及啓蒙活動
藤島清太郎 Seitaro Fujishima	准教授		救急医学教室	炎症性肺疾患 敗血症 (Sepsis) 肺組織幹細胞	過剰かつ異常な炎症反応の結果生じる急性呼吸促進症候群 (ARDS)・間質性肺炎などの炎症性肺疾患、および重症敗血症の病態解明と、治療薬や診療・研究機器の開発を行っている。
廣橋 説雄 Setsuo Hirohashi	特任教授	● ●	総合医科学研究 センター	分子病理学による がんの病態の解明	病理形態学と最先端の分子細胞科学による解析を結び付け、がんの発生、浸潤・転移などの病態の解明につなげる。がん細胞間の細胞接着不全の機構やがん細胞と間質細胞の相互作用の役割などを解析している。
松本 秀男 Hideo Matsumoto	教授		スポーツ医学総合 センター	膝関節外科学、 運動器の生体工学 および組織工学	関節の三次元運動解析、スポーツや日常生活動作の解析を行い、運動器疾患の機序解明と人工関節の開発研究を行っている。骨、軟骨、靭帯の細胞培養実験により、細胞移植や組織移植の基礎および臨床研究を行っている。
緒方 晴彦 Haruhiko Ogata	教授		内視鏡センター	炎症性腸疾患の病態 解明・新規治療法開 発、消化管疾患の内 視鏡診断・治療	Image enhancingならびに超拡大機能を搭載した内視鏡機器を用いた消化管粘膜のin vivo観察による炎症性腸疾患の病態解明と、付加価値機能や全消化管観察が可能な近未来型カプセル内視鏡の開発。
向井萬起男 Makio Mukai	准教授		病理診断部	人体病理、軟部腫瘍 の起源・診断、免疫 組織化学	軟部腫瘍の組織像は多彩で、その組織起源、組織診断が極めて難しく、未だに問題点が数多く残されている。これらの問題点を免疫組織化学を主な手法として解明する。
半田 誠 Makoto Handa	教授		輸血・細胞療法 センター	血小板血栓形成機構 の解析、人工血小板 の開発	血小板血栓形成に係わる細胞接着因子やシグナル分子を、in vitro測定系や分子欠損患者やマウスを用いて解析するとともに、血小板輸血を代替できる人工血小板を、リポソームを使用して開発している。

	論文審査資格 修士 博士	所 属	専門領域	研究内容等	
杉野 吉則 Yoshinori Sugino	教授		予防医療センター (仮称) 開設準備室	消化管X線診断学、 消化管内視鏡診断お よび治療学、予防医 学 (消化管検診)	X線および内視鏡による消化管癌および炎症性疾患の微細所見の診断を、装置・検査方法・画像処理などの面から臨床的および基礎的に研究している。また、上記の研究を検診に導入して予防医療に応用する。
渡辺 真純 Masazumi Watanabe	教授		医学部新病院棟 建設企画室	病院運営・企画	医学部創立100年(2017年)の新病院棟のオープンと、2012年の3号館南棟(病棟のほか、予防医療部門、腫瘍・免疫治療のための外来化学療法部門、PETを含めた最先端画像診断やRI製剤部門の機能をあわせ持つ)竣工を目指し、機能分担から資金計画に亘る企画立案に取り組んでいる。
古野 泰二 Taiji Furuno	教授	●	物理学教室	表面界面、 バイオイメーjing	(1)気液界面を利用したタンパク質の2次元結晶化と構造評価 (2)固体基板表面への生体分子の吸着・固定 (3)光学顕微鏡と原子間力顕微鏡を組み合わせたバイオイメーjing
井上 浩義 Hiroyoshi Inoue	教授	●	化学教室	分子認識化学、 創薬化学、 天然物化学	アプタマーおよび標識放射性同位元素を用いて、生活習慣病および加齢関連因子認識物質および検出方法を開発している。加えて、天然物由来機能性物質の探索・薬理研究および製造方法の開発を行っている。
長井 孝紀 Takatoshi Nagai	教授	●	生物学教室	感覚器の神経生物学	味覚器における刺激受容と情報伝達機構の研究。さらに、両生類の皮膚をモデルとして、上皮細胞を介したイオンと水の輸送を生理学、形態学、動物行動学の手法で研究している。
樽井 正義 Masayoshi Tarui	教授	●	文学部	社会哲学、 生命倫理学	自由、平等、人権といった社会哲学の基礎概念と、医療の場で提起される倫理上の諸問題、たとえばHIV感染症が提起する予防と治療への普遍的アクセスといった問題との、反照的均衡を試みている。
大野 裕 Yutaka Ono	教授	●	保健管理センター (ストレスマネジ メント室)	認知療法・認知行 動療法の効果と応 用可能性に関する 研究	認知療法・認知行動療法のマニュアルに準拠した治療効果の検証と、医療や福祉、産業、教育などの各分野における応用可能性に関する臨床研究と、画像等を用いた認知療法・認知行動療法の効果発現のメカニズムに関する基礎研究を行っている。
中村 洋 Hiroshi Nakamura	教授	●	経営管理研究科	産業組織論 (ライ フサイエンス産業、 ヘルスケア産業)、 経営戦略論	ライフサイエンス産業において革新をもたらすための企業の経営戦略ならびに組織改革、革新的製品の創出と患者・財政負担の軽減を両立させる政策、ヘルスケア産業における院内・外での多職種連携のあり方についての考察
田中 滋 Shigeru Tanaka	教授	●	経営管理研究科	医療政策・ 医療経済学	(1)医療・介護の両保険制度について思想的背景を踏まえた分析に基づき提言を行う (2)医療・介護の提供体制について地域単位で構成する包括的な仕組みづくりの検討 (3)国民負担率とマクロ経済の関係について
姉川 知史 Tomofumi Ane-gawa	教授	●	経営管理研究科	医療経済学、 応用経済学	経済学を応用して、医療、教育、エネルギーその他の産業の分析を行う。とりわけ医薬品産業の分析、研究開発・知的財産権の経済学、医療の地域格差分析など。
小町谷尚子 Naoko Komachiya	准教授		英語教室	初期近代英文学	英国初期近代文芸において、癡しとしての笑いが重視された現象を分析。風刺文学や演劇等の文化活動における笑いの効果を心のケアの起源とみて、ホスピタルクラウンへとつながる道化の系譜作成が目下の課題である。
金澤 哲夫 Tetsuo Kanazawa	准教授		フランス語教室	フランス文学 (特に19世紀)	19世紀フランスにおいて特に豊かな開花を見た詩と小説を探索・研究している。医学部における授業においては、フランス語の基礎を学んだうえで、医学・医療に関してフランス語で書かれた時事問題などの記事も読んでいる。
南 就将 Nariyuki Minami	教授		数学教室	数学 (確率論とその数理 物理学等への応用)	ランダムなポテンシャル項を持つシュレーディンガー作用素および確率変数を成分とする行列を代表例とするランダム作用素について、そのスペクトルの統計的な性質を調べている。
三井 隆久 Takahisa Mitsui	准教授		物理学教室	柔らかい物質の表 面もしくは内部の 運動計測	物質内部や表面は熱運動している。この測定により、熱揺らぎに対する知見が得られるだけでなく、非接触で湿潤や弾性を測定することができる。様々な物質で計測を行い、臨床診断への応用を探索している。
鈴木 忠 Atsushi C. Suzuki	准教授		生物学教室	比較動物学、 緩歩動物 (クマムシ) の生物学	強力な乾燥耐性を持つことで知られる陸上のクマムシの生活史や、海産クマムシの分類、卵形成様式の微細形態学など、緩歩動物をめぐるナチュラルヒストリーについて研究している。

修士



医学研究科
修士課程2年 解剖学教室
李 嬉京

私は社会人を経て大学に入り直し、薬学を学びました。そして、大学4年時の卒業研究でアルツハイマー病をテーマに研究を行いました。その卒業研究がきっかけとなり神経変性疾患に関する研究をさらに続けたいと思い、医学研究科修士課程に入学しました。

現在は解剖学教室の相磯貞和教授、さらに東京医科大学薬理学講座の松岡正明主任教授からご指導をいただき、筋萎縮性側索硬化症（以下 ALS）の発症メカニズムについて研究しています。ALSは運動神経が変性して手足が不自由となり呼吸困難で死に至ることもある難病で、発症メカニズムは分かっていません。発症メカニズムを解明して根本的な治療薬開発に繋げることを目標として、家族性 ALS 原因遺伝子を手がかりに培養細胞を用いた研究を行っています。

私は東京医科大学で研究を行っていますが、慶應義塾大学大学院では学内・学外で共同研究が盛んに行われていることから、私のように外部で研究を行っている

学生は他にも複数います。信濃町メディアセンターにリモートアクセスして電子ジャーナルを検索する、メールリストを介して事務の方と連絡するといった情報のやり取りが可能のため、外部で研究を行っていてもそれほど不自由を感じません。また、様々なバックグラウンドを持つ学生がいることも本大学院の特徴で、多様な考えや情報を交換することで研究に対する視野が広がりました。

さらに、大学院 GP には多くのプログラムが整えられています。サマースクールやシンポジウムを通して貴重な講演や研究発表を聴かせて頂いたり、鶴岡キャンパス研修、ラボツアー、臨床体験プログラムに参加して、普段見ることの出来ないキャンパスやラボ内、大学病院での診察・カンファレンスなどを見学しました。これらの経験は研究を行う上で大きな刺激や励みとなっています。このような、研究環境はもちろんのこと、講義や多様なプログラムを通してより一層充実した研究生活を送られていることにとっても感謝しています。

博士



医学研究科
博士課程3年 内科学教室
関 倫久
(第1回日本学術振興会育志賞受賞)

私は初期臨床研修を終了後、循環器内科大学院生として福田恵一教授のご指導のもとで人工多能性幹細胞（iPS 細胞）を用いた疾患解析の研究を開始致しました。大学院への入学当時、私の研究というものに対する印象は漠然としたものであり、とりあえず研究というものに触れてみたいという軽い気持ちで門を叩きました。しかし入学後すぐに、研究室で行われていることひとつひとつが、臨床の最前線で患者さんの役に立つような成果を出すという目標に向かっていくことを強く感じました。

現在再生医療の分野は iPS 細胞の発明に沸き立っており、これを疾患解析、細胞移植へとつなげようという研究は極めて大きな意義を持つものであると考えられます。そのような研究に取り組むなかで、iPS 細胞の作製方法をより患者にとって低侵襲なものにできな

いかという着想から研究を行い、微量の血液から iPS 細胞を作製する方法を確立し博士課程第三学年時に論文として発表させていただくことができました。当然のことながら、この成果は周りの先生方に指導していただき、支えていただいた結果であり、多くのスペシャリストに囲まれて研究ができる恵まれた環境だからこそ生まれたものだと思っております。高いレベル、高いモチベーションで研究の指導をしていただいた先輩方には本当に感謝しております。

慶應では世界を牽引するような研究がいくつも行われており、高い目標を持って研究ができる恵まれた環境が整っていると思います。大学院への進学を考えている方の中には私のように研究というものに初めて触れる方もいるかと思いますが、思い切って飛び込んでみることで貴重な経験と出会うことができるかもしれません。

■プレスリリース

〈末梢血中の終末分化したヒトT細胞からiPS細胞の樹立に成功—Cell Stem Cell に掲載—〉

2010年07月02日

グローバル COE プログラム “幹細胞医学のための教育研究拠点” 事業推進担当者 福田恵一教授、COE PD の OB 湯浅慎介講師、本拠点 RA(D3) 関倫久君らの研究グループは、センダイウィルスという特殊な遺伝子の運び屋を用いて末梢血液中に豊富に存在しているリンパ球から iPS 細胞を作製することを計画し、リンパ球のひとつであるヒト T 細胞から、ゲノム遺伝子を傷害することなく iPS 細胞を作製することに成功しました。

詳細については、GCOE ホームページ <http://www.gcoe-stemcell.keio.ac.jp/> をご覧ください。

学位（修士）授与数 [2011年4月1日現在（ ）内は女子で内数]

昭和27～平成3 合計*	—	—
平成3～平成22 合計	修士(医科学)	250(128)

※修士課程は平成6年に創設

年度	平成13年(2001)	平成14年(2002)	平成15年(2003)	平成16年(2004)	平成17年(2005)	平成18年(2006)	平成19年(2007)	平成20年(2008)	平成21年(2009)	平成22年(2010)
授与数	11(7)	10(3)	14(6)	11(8)	15(8)	22(11)	18(8)	23(11)	28(9)	19(11)

学位（博士）授与数 [2011年4月1日現在（ ）内は女子で内数]

昭和27～平成3 合計*	医学博士	2,257(140)
平成3～平成22 合計	博士(医学)	1,859(282)

※「学位規則の一部を改正する省令(平成3年7月1日施行)」により、学位の表記が改められたため、旧表記の学位による授与数。

年度	平成13年(2001)	平成14年(2002)	平成15年(2003)	平成16年(2004)	平成17年(2005)	平成18年(2006)	平成19年(2007)	平成20年(2008)	平成21年(2009)	平成22年(2010)
授与数	102(13)	90(17)	110(13)	138(26)	97(19)	92(17)	87(17)	84(24)	103(23)	101(23)

入学金・在学料そのほかの必要な経費(2011年度参考)

入学金	在学料	施設設備費	実験実習費	情報ネットワーク登録・利用料	研究会費・学会誌配付費用	学生自治会費	学生健康保険互助組合費	合計
310,000円	880,000円	90,000円	180,000円	5,000円	—	—	2,600円	1,467,600円

キャンパス案内

信濃町キャンパス 〒160-8582 東京都新宿区信濃町35

TEL 03-5363-3662

Access JR総武線・中央線 信濃町駅下車(徒歩約1分)

